

2018年3月期 決算説明資料

2018年5月10日

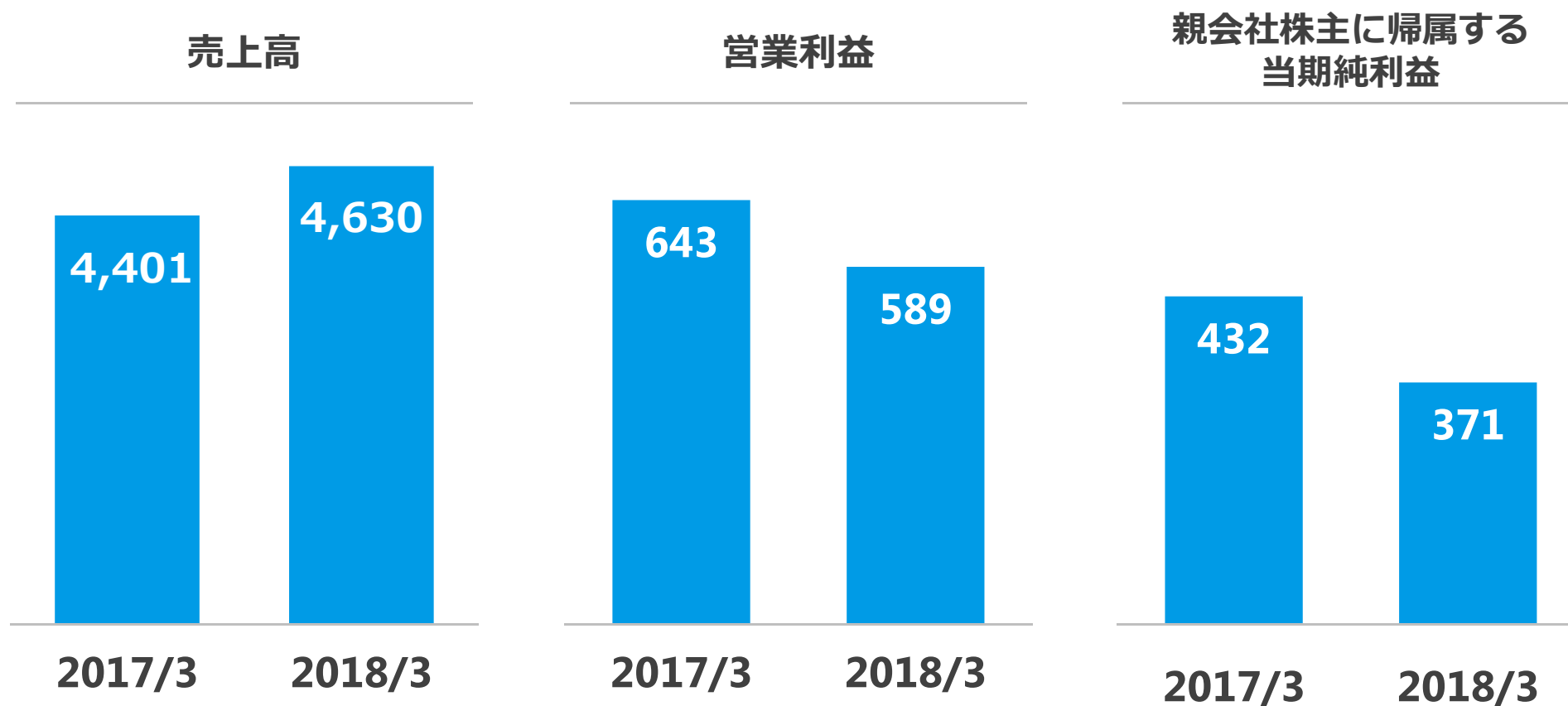
株式会社 **ダイセル**

目次

1. 2018 年 3月期 業績	P. 3
2. 2019 年 3月期 業績予想	P. 6
3. 設備投資／減価償却	P. 8
4. セグメント情報	P. 11
5. 株主還元	P. 15
6. 参考資料	P. 16

決算ハイライト

(単位：億円)



- 火工品や合成樹脂などの販売数量の増加や、販売価格改定などにより、増収。
- 原燃料価格の上昇や、大竹工場の火災事故の影響などにより、減益。

1. 2018年3月期 業績

業績

(単位：億円)

	2017年 3月期	2018年 3月期	増減	増減率 (%)
売上高	4,401	4,630	+229	+5.2%
営業利益	643	589	△54	△8.4%
営業外損益	19	22	+3	+13.3%
経常利益	662	611	△51	△7.7%
特別損益	△18	△19	△0	△1.2%
税金等調整前 当期純利益	644	592	△51	△8.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	432	371	△61	△14.2%
ROE	12.2%	9.8%	△2.4%	
営業利益率 (%)	14.6%	12.7%	△1.9%	

原燃料価格

	2017年 3月期	2018年 3月期
メタノール アジア スポット価格 (USD/ton)	277	338
原油 ドバイ (USD/bbl)	41	56
国産ナフサ (円/kl)	34,750	41,950

為替レート

	2017年 3月期	2018年 3月期
USD/JPY	109	111

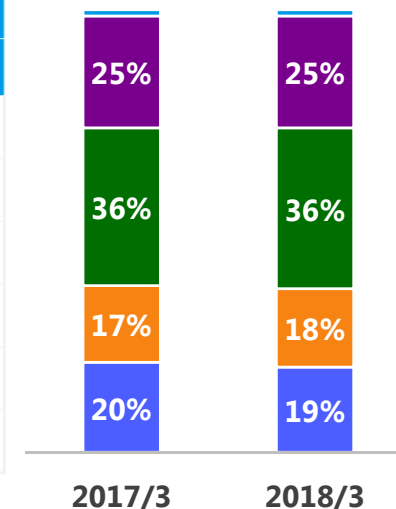
セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2017年 3月期	2018年 3月期	増減	増減率	分析	
					数量差	単価差
セルロース	895	891	△4	△0.5%	+23	△27
有機合成	762	820	+59	+7.7%	△2	+60
合成樹脂	1,569	1,683	+113	+7.2%	+58	+55
火工品	1,112	1,172	+60	+5.4%	+29	+31
その他	62	64	+2	+2.4%	+2	-
合 計	4,401	4,630	+229	+5.2%	+110	+119 ^{※1}

※1 為替影響 +55を含む。

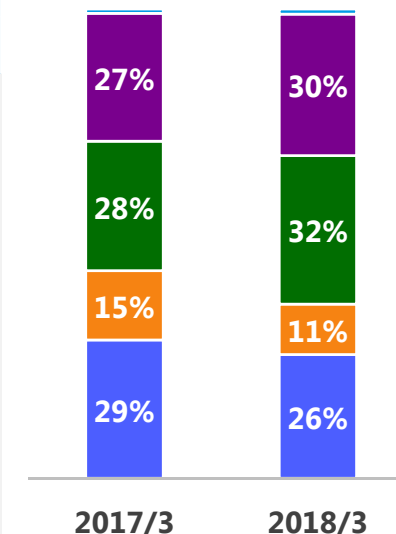
(構成比)



営業利益	2017年 3月期	2018年 3月期	増減	増減率	分析		
					数量影響	価格影響	その他
セルロース	230	194	△36	△15.9%	+13	△45	△5
有機合成	115	79	△36	△31.4%	+7	+19	△62
合成樹脂	216	233	+17	+7.9%	+44	△8	△20
火工品	213	222	+9	+4.2%	+56	△5	△43
その他	7	8	+0	+1.6%	+0	-	-
全 社	△138	△145	△7	△5.2%	-	-	△7
合 計	643	589	△54	△8.4%	+120	△38 ^{※2}	△136

※2 為替影響 +15を含む。

(構成比)



2. 2019年3月期 業績予想

業績予想

(単位：億円)

	2018年 3月期 実績	2019年 3月期 予想	増減	増減率 (%)
売上高	4,630	4,780	+150	+3.2%
営業利益	589	510	△79	△13.5%
経常利益	611	530	△81	△13.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	371	370	△1	△0.2%
営業利益率 (%)	12.7%	10.7%	△2.0%	

原燃料価格

	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (計画)
メタノール アジア スポット価格 (USD/ton)	338	330
原油 ドバイ (USD/bbl)	56	62
国産ナフサ (円/kl)	41,950	47,000

為替レート

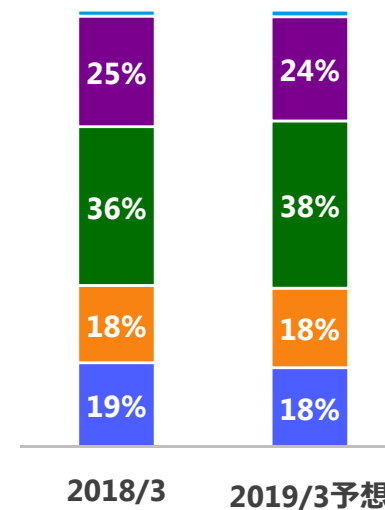
	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (計画)
USD/JPY	111	110

セグメント別 売上高・営業利益 (単位：億円)

売上高

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	増減	増減率
セルロース	891	866	△25	△2.8%
有機合成	820	870	+50	+6.0%
合成樹脂	1,683	1,831	+148	+8.8%
火工品	1,172	1,140	△32	△2.7%
その他	64	73	+9	+14.2%
合 計	4,630	4,780	+150	+3.2%

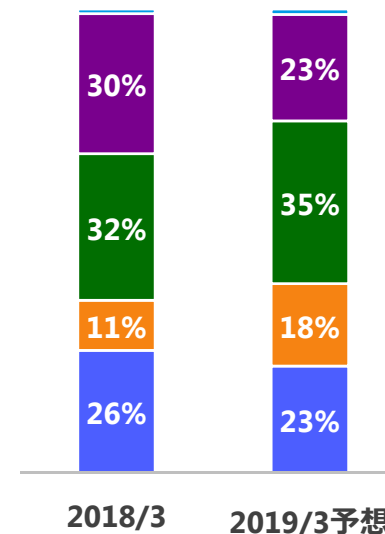
(構成比)



営業利益

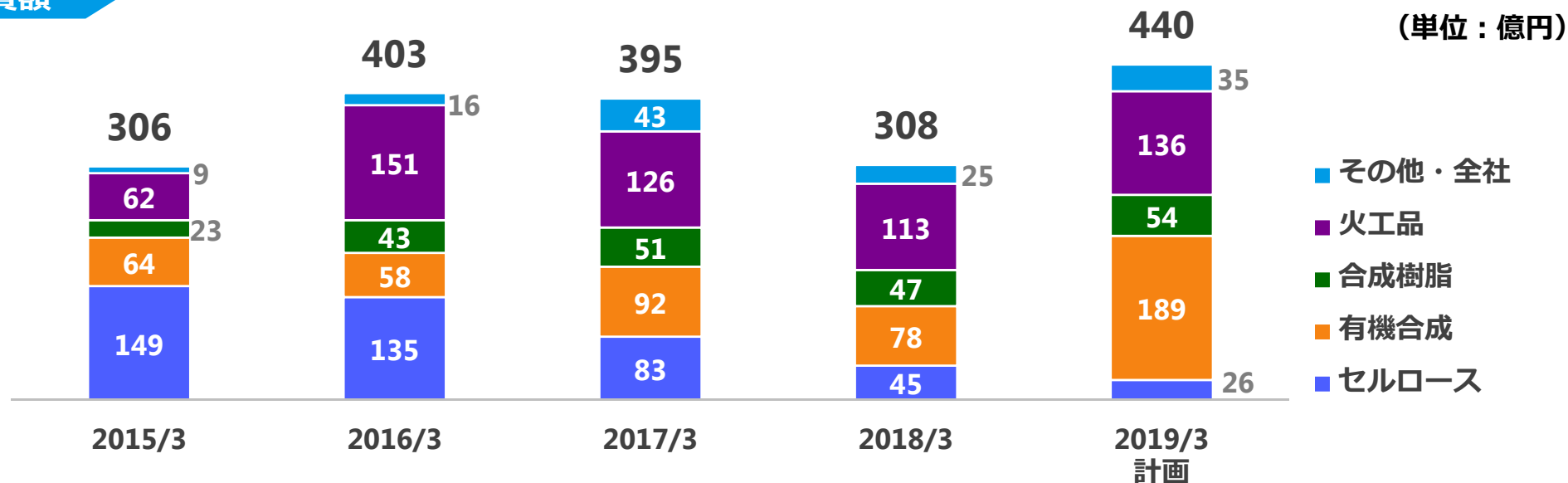
	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	増減	増減率
セルロース	194	155	△39	△19.9%
有機合成	79	120	+41	+51.6%
合成樹脂	233	237	+4	+1.9%
火工品	222	155	△67	△30.1%
その他	8	8	+0	+6.2%
全 社	△145	△165	△20	△13.6%
合 計	589	510	△79	△13.5%

(構成比)

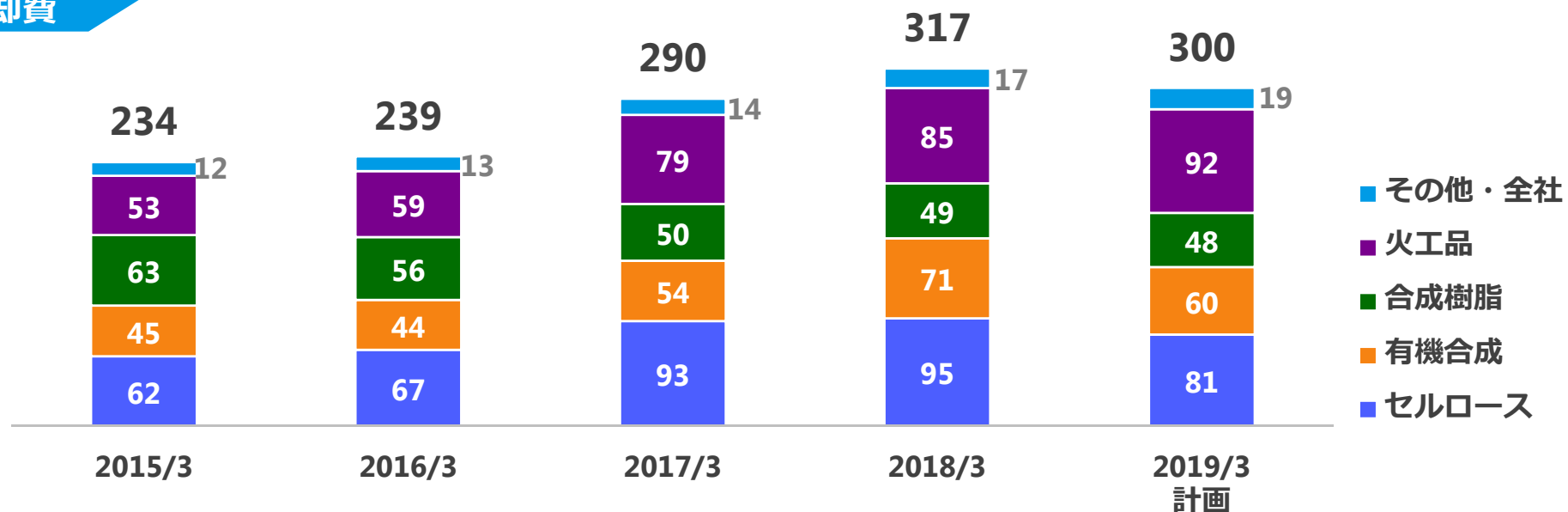


3. 設備投資／減価償却

設備投資額



減価償却費



2019年3月期 主な設備投資計画案件

■ 有機合成

- CO（一酸化炭素）プラントの更新
- 新井工場 「イノベーションセンター新井」建設

■ 合成樹脂

- エンジニアリングプラスチックのコンパウンド能力増強（台湾、マレーシア）

■ 火工品

- 中国にイニシエータ製造設備建設
- インフレータの能力増強
- ガス発生剤実証設備導入
- 画像処理技術を用いたグローバル統合管理システム導入

2020年3月期以降 主な設備投資計画案件

■ 有機合成

- 1.3BGの新プラント建設（検討中）

■ 合成樹脂

- ポリアセタール樹脂の能力増強（検討中）
- 機能フィルム開発 新規クリーンコーター設置

■ 火工品

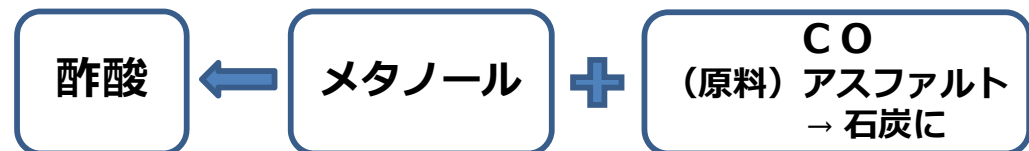
- インフレータの能力増強
- 播磨工場 「イノベーションセンター播磨」建設

■ 共通

- 大竹工場 統合生産センター建設
- 網干工場 機能開発・機能保証センター設置
- 網干工場 新規ボイラー設置

2019年3月期 TOPICS

1. CO（一酸化炭素）プラントの更新



- ・ 酢酸原料の一つであるCOのプラントを更新する。
- ・ 更新にあわせて、原料の最適化を実施する。
(アスファルトから石炭に転換)
- ・ これにより一層の操業安定化、原料コストの安定化を図る。

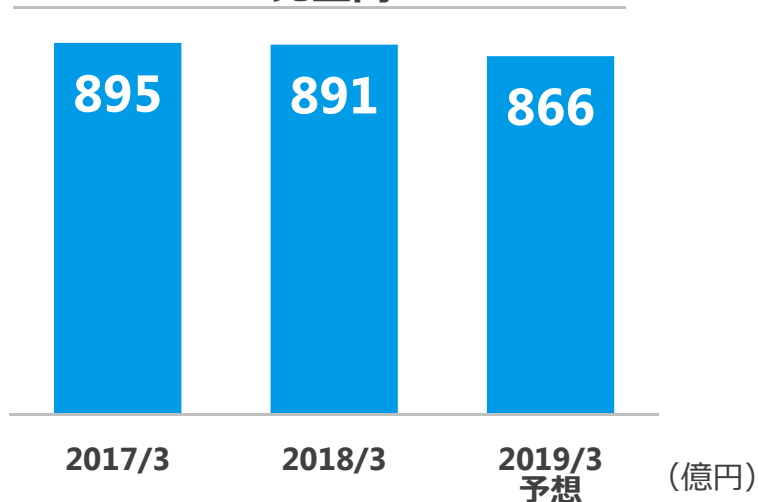
2. 網干工場の酢酸プラント、COプラントの2年連続操業の中断



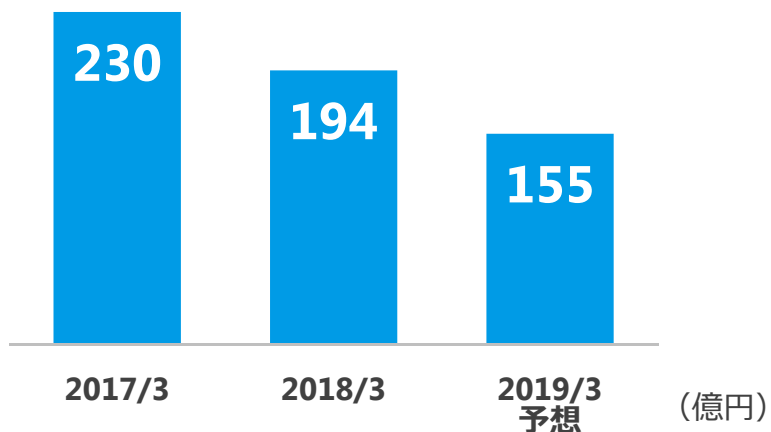
- ・ 増産効果を目的に、高圧ガス保安検査実施者の認定を取得して2年連続操業を続けてきた。
- ・ 今回、COの新プラント建設に伴い、認定の更新を見送り、2年連続操業を一旦中断する。
- ・ 保安検査実施者の認定申請要件として、当該プラントにおいて2年以上の安定運転の実績が必要であるが、それを満たさなくなるため。

セルロース

売上高



営業利益



■ 売上高 △4 億円（為替影響 +14 億円）

（酢酸セルロース：横這い）

- 液晶表示向けフィルム用途の販売数量が減少。
- その他用途の販売数量が増加。

（たばこフィルター用トウ：微減収）

- 主要顧客との関係強化や新規顧客開拓により販売数量が増加。
- 市況軟化により販売価格が低下。

■ 営業利益 △36 億円

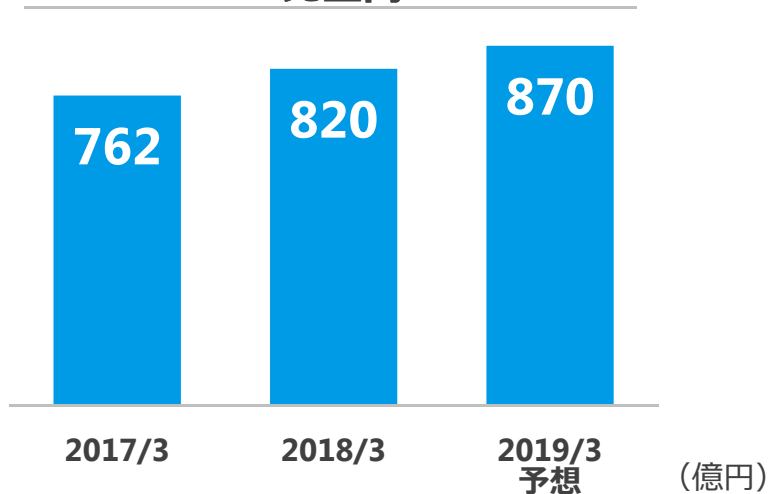
- 原燃料価格の上昇や市況軟化の影響などにより、減益。

2019年3月期 見通し：減収減益

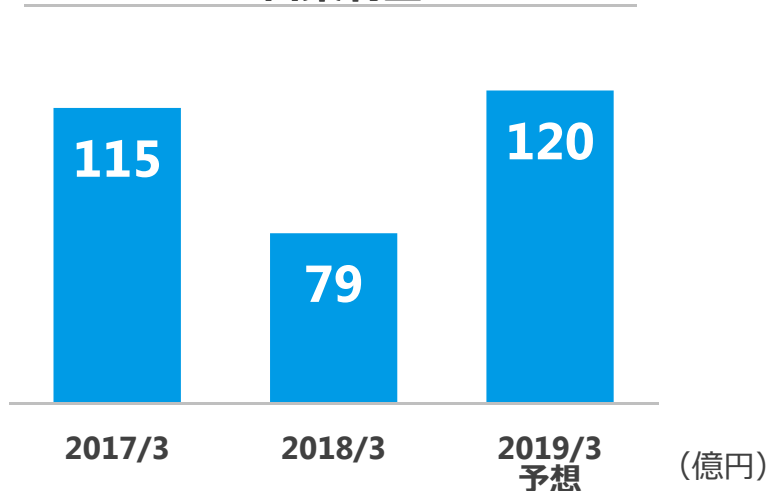
- 酢酸セルロースの販売数量は、液晶表示向けフィルム用途が減少し、たばこフィルター用などその他用途が増加する見通し。
- たばこフィルター用トウは、世界的に需給が緩んでいる環境だが、フル稼働を継続。販売数量は増加する見通し。
- たばこフィルター用トウの販売価格低下が影響。

有機合成

売上高



営業利益



売上高 +59 億円（為替影響 +5 億円）

（酢酸：増収）

- 網干工場で定期修繕を実施したことにより販売数量が減少。
- 市況が上昇。

（合成品：増収）

- 販売数量が増加。■ 原燃料価格上昇に伴う販売価格改定を実施。

（機能品：横這い）

- 火災事故の影響で過酢酸誘導体の販売数量が減少。
- 電子材料分野への販売数量が増加。
- コスメ・ヘルスケア分野の需要が堅調に推移。

（キラル分離事業：増収）

- カラムや充填剤の販売が増加。■ インドでの新規事業が成長。

営業利益 △36億円

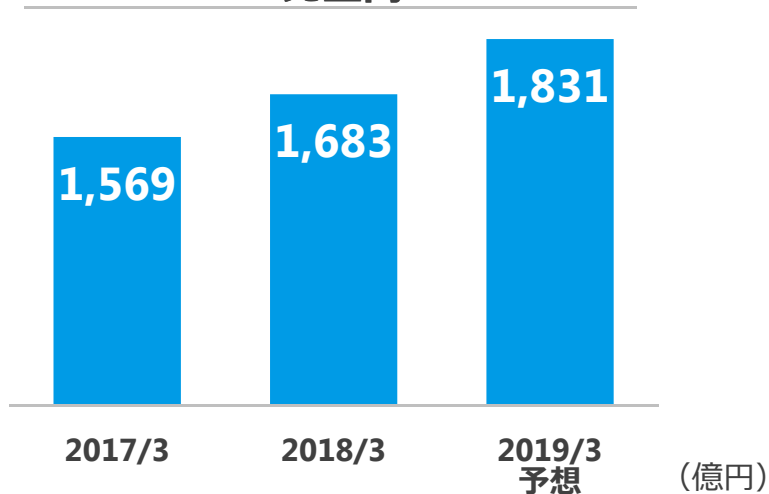
- 原燃料調達価格の上昇や、研究開発費、減価償却費の増加、火災事故の影響などにより、減益。

2019年3月期 見通し：増収増益

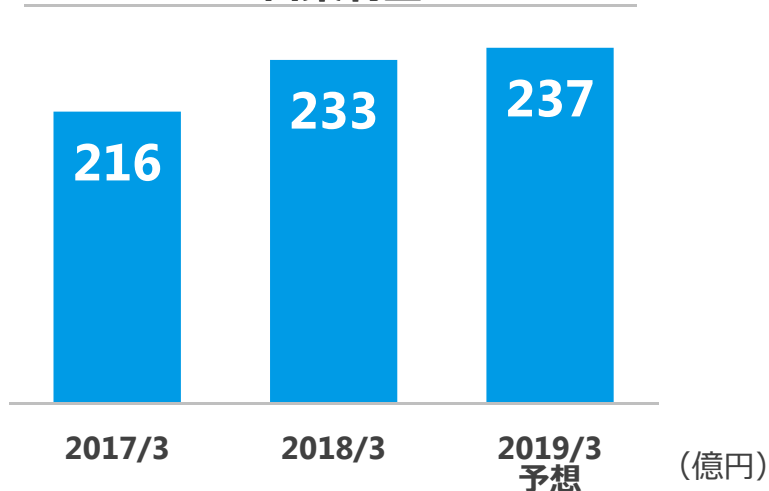
- 酢酸市況が上昇する見通し。
- 電子材料分野やコスメ・ヘルスケア分野での機能品の販売増加、過酢酸プラント稼動再開に伴う過酢酸誘導体の販売増加の見通し。
- 過酢酸プラントは、2018年秋に事故前の製造能力に復旧する見通し。

合成樹脂

売上高



営業利益



売上高 +113 億円（為替影響 +20 億円）

（エンジニアリングプラスチック事業：増収）

- 自動車部品およびスマートフォンの需要増加と新規採用により販売数量が増加。
- 原燃料価格上昇に伴う販売価格の改定や為替が影響。

（樹脂コンパウンド事業：増収）

- 海外を中心に販売数量が減少。
- 原燃料価格上昇に伴う販売価格の改定や為替が影響。

（樹脂加工事業：減収）

- シートの販売が減少。

営業利益 +17 億円

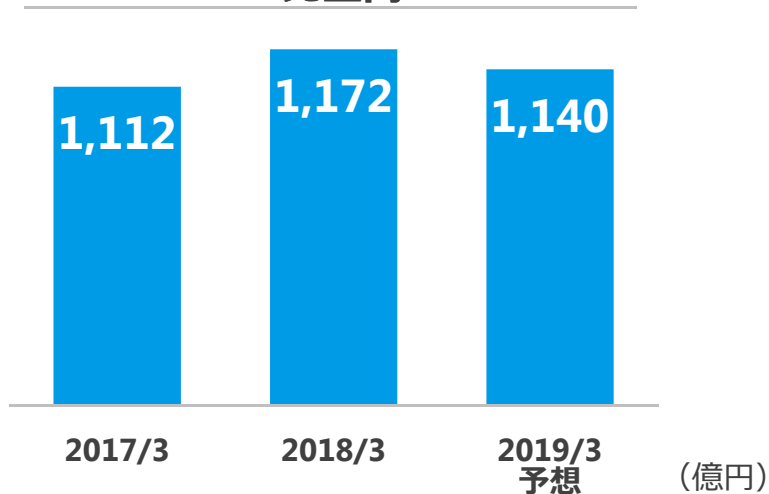
- 原燃料調達価格上昇の影響があったものの、販売数量の増加などにより、増益。

2019年3月期 見通し：増収増益

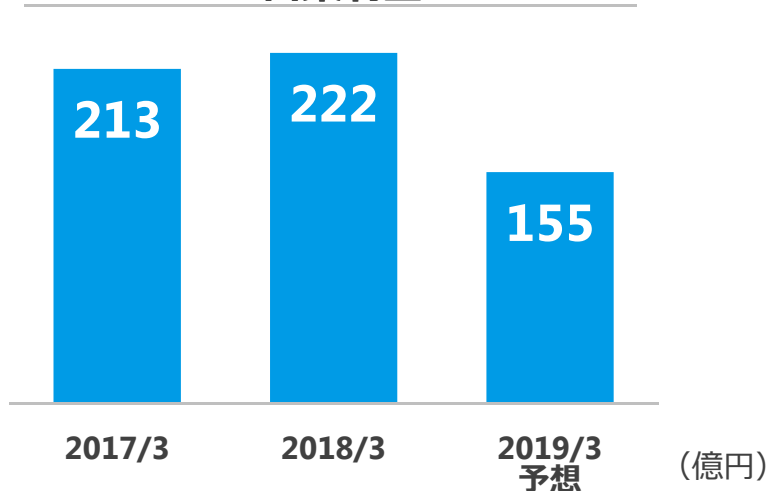
- エンジニアリングプラスチックは、引き続き旺盛な需要により販売数量が増加するものの、原燃料価格上昇や今後の事業成長のための費用増加などにより、営業利益は横這いの見通し。
- 樹脂コンパウンド事業などの販売増加が、セグメントの増益に寄与する見通し。

火 工 品

売上高



営業利益



売上高 +60 億円（為替影響 +16 億円）

（自動車安全部品事業：増収）

- インフレータの販売数量が増加。
- 為替が影響。

（特機事業：減収）

- 一部製品の防衛省による調達数量が減少。

営業利益 +9 億円

- 販売数量の増加などにより、増益。

2019年3月期 見通し：減収減益

- インフレータの販売数量は増加する見通し。
- インフレータの販売品種構成の変化やイニシエータの販売数量の減少が、減収要因となる見通し。
- 将来のビジネス拡大のための研究開発費や、安全と品質確保など基盤強化のための費用が増加する見通し。

株主還元

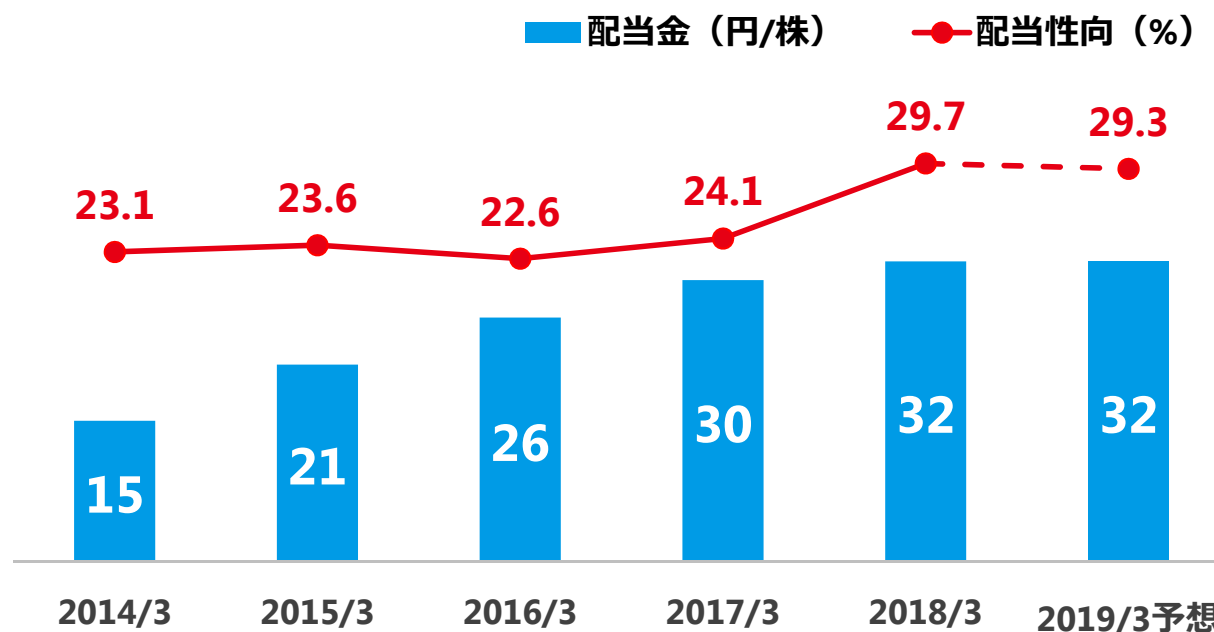
2018年3月期

- 期末配当 16円／株、
年間配当 32円／株（前期比 2円増配）
- 750万株、約100億円の自己株式取得を実施

2019年3月期

- 年間配当予想 32円／株
- 830万株、100億円を上限とする自己株式取得を決定

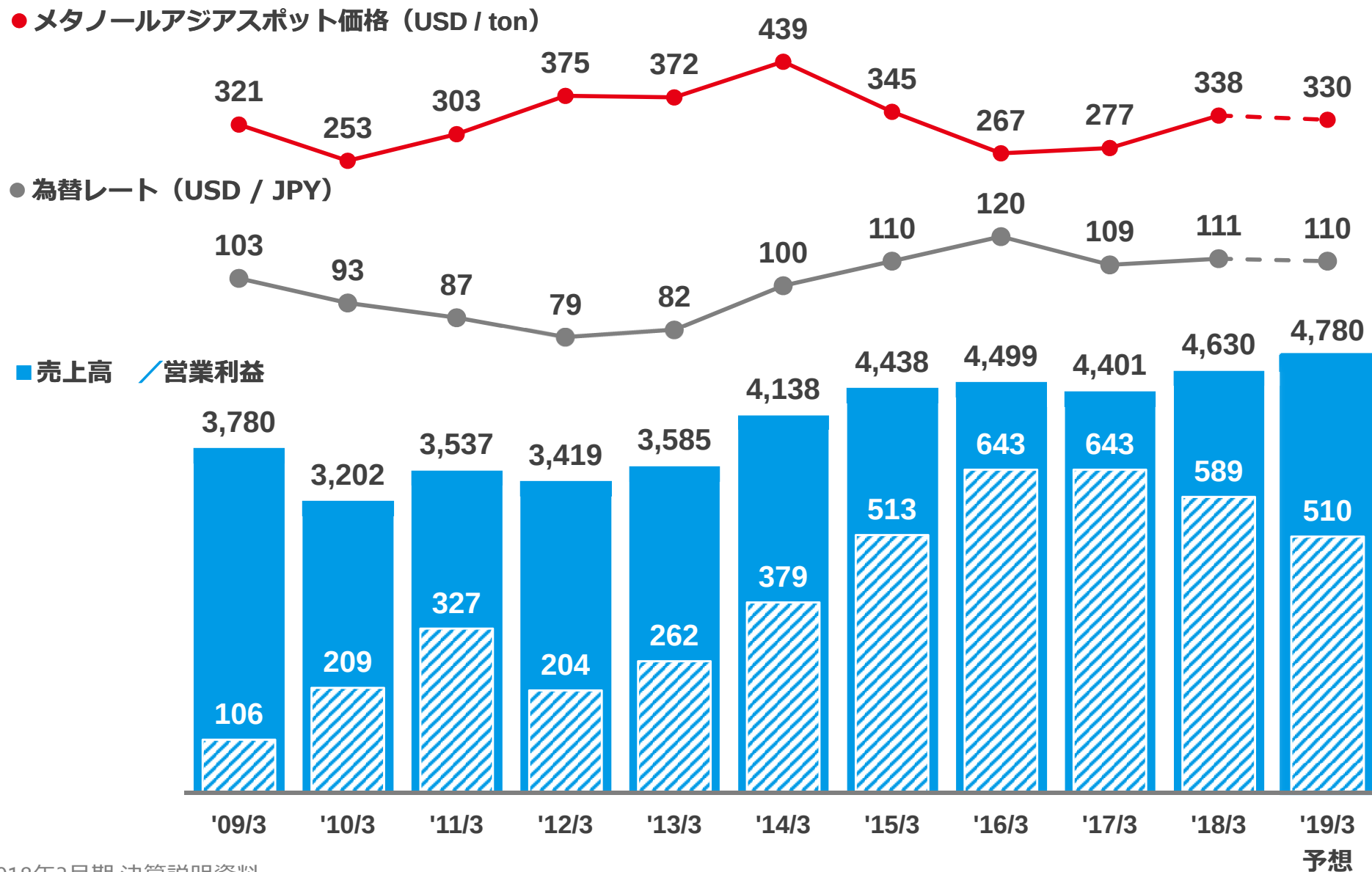
(円／株)	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想
中間配当	16	16
期末配当	16	16
年間配当	32	32



参考資料

売上高・営業利益の推移と予想

(単位：億円)



連結貸借対照表

(単位：億円)

		2017年3月末	2018年3月末	増減	備考
流動資産		3,072	3,546	+474	
	現預金及び有価証券	969	1,293	+324	
	受取手形及び売掛金	883	933	+49	
	棚卸資産	1,007	1,093	+86	
	その他	213	227	+14	
固定資産		2,925	2,895	△ 30	
	有形固定資産	1,852	1,840	△ 11	新規取得+293, 償却△300, 除却△4
	無形固定資産	96	86	△ 10	
	投資その他資産	977	969	△ 8	
資産合計		5,997	6,441	+444	
負債		2,003	2,305	+303	
	有利子負債	723	997	+275	社債+300, 有利子負債比率 15.5%
	その他	1,280	1,308	+28	
純資産		3,994	4,135	+141	自己資本比率 59.8%
負債純資産 合計		5,997	6,441	+444	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

		2017年3月期	2018年3月期	増減
	営業キャッシュ・フロー	862	669	△193
	投資キャッシュ・フロー	△347	△332	+15
フリーキャッシュフロー		514	337	△177
財務キャッシュ・フロー		△199	△20	+180
その他		△5	3	+7
現金及び現金同等物の増減額		310	320	+10
現金及び現金同等物の当期末残高		963	1,283	+320

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2017年3月期				2018年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
セルロース	223	212	218	243	221	229	228	212
有機合成	190	175	188	209	196	195	205	225
合成樹脂	379	385	408	398	412	425	434	411
火工品	233	274	299	307	280	301	284	307
その他	13	16	17	17	13	17	16	18
合 計	1,037	1,061	1,129	1,173	1,123	1,168	1,167	1,173

営業利益	2017年3月期				2018年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
セルロース	64	53	54	59	55	55	47	37
有機合成	35	22	28	30	21	15	20	23
合成樹脂	63	50	54	48	57	64	55	56
火工品	41	44	67	61	60	56	57	48
その他	1	2	2	2	0	2	1	3
全 社	△32	△37	△30	△40	△36	△36	△32	△41
合 計	172	134	175	162	158	157	146	128

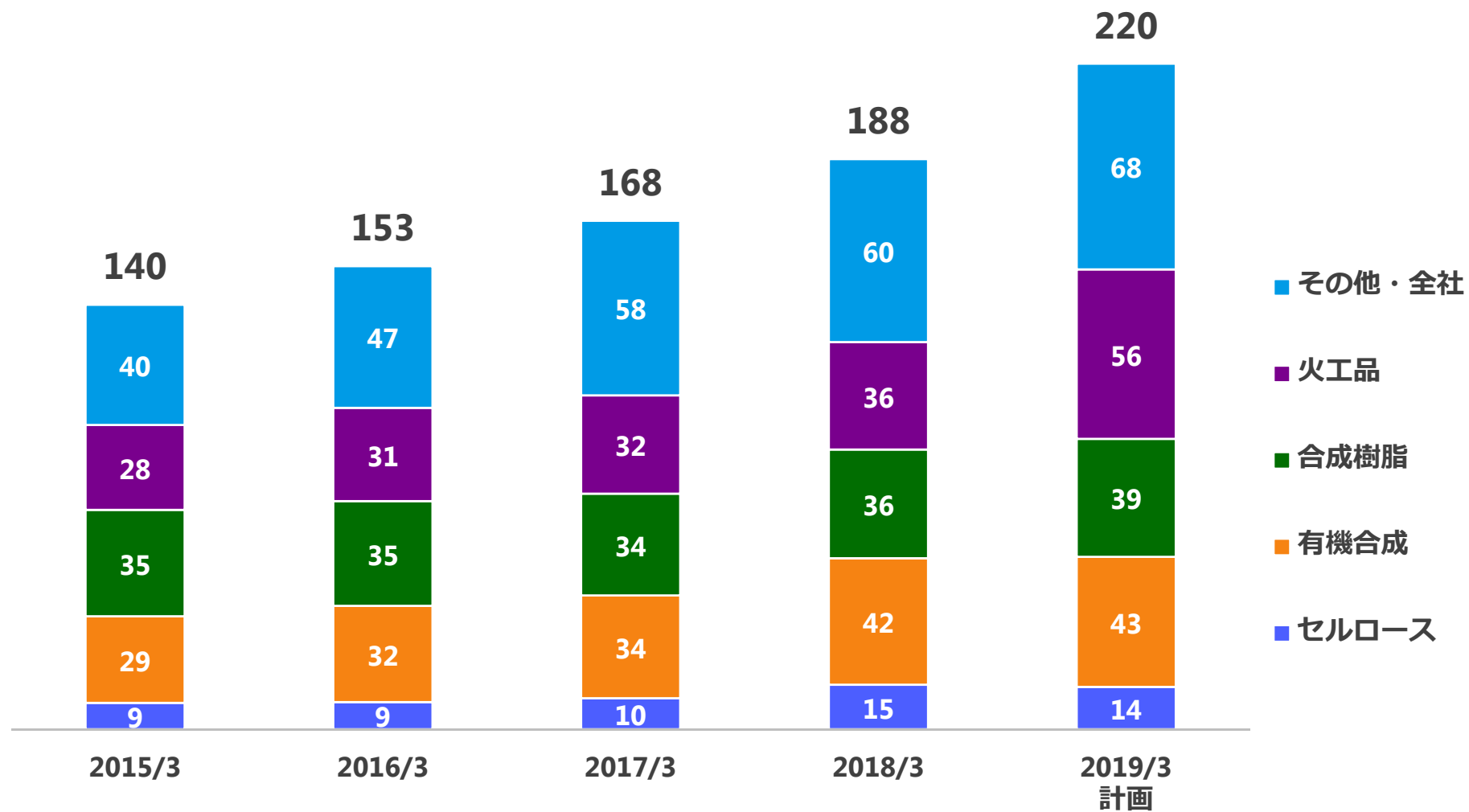
通期業績予想

(単位：億円)

		2018年3月期 実績			2019年3月期 予想			年間増減
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
	セルロース	451	440	891	431	435	866	△25
	有機合成	391	429	820	430	440	870	+50
	合成樹脂	837	845	1,683	906	925	1,831	+148
	火工品	581	591	1,172	551	589	1,140	△32
	その他	30	34	64	32	41	73	+9
売上高		2,290	2,339	4,630	2,350	2,430	4,780	+150
	セルロース	110	83	194	85	70	155	△39
	有機合成	36	43	79	60	60	120	+41
	合成樹脂	122	111	233	120	117	237	+4
	火工品	116	105	222	79	76	155	△67
	その他	3	5	8	3	5	8	+0
	全社	△72	△73	△145	△82	△83	△165	△20
営業利益		315	274	589	265	245	510	△79
経常利益		331	279	611	275	255	530	△81
親会社株主に帰属する当期純利益		196	175	371	190	180	370	△1
(参考) 為替レート USD/JPY		111	111	111	110	110	110	

研究開発費

(単位：億円)



研究開発の主なテーマ

■ セルロース

- ・生産技術および品質競争力強化の取り組み
- ・セルロースをベースとした新用途開拓や新製品開発

■ 有機合成

- ・既存製品の競争力強化のため、プロセス革新技術の製造プラントへの適用
- ・キラル事業におけるバイオ分離・精製事業への展開
- ・独自素材・配合技術によるコスメ分野への進出
- ・FPD／ArFレジスト材料・低メタル溶剤等の電子材料の開発および販売強化

■ 合成樹脂

- ・エンジニアリングプラスチックの高品質化および環境対応

■ 火工品

- ・新規ガス発生剤や新規インフレータの研究開発
- ・火工品技術を応用した新規分野の商品開発

■ その他・全社

メディカル・ヘルスケア分野

メディカル用機器・材料

- ・火薬工学を用いた新規投与デバイスの開発
- ・易服用型経口剤用添加剤（口腔内崩壊錠）の開発

ヘルスケア（健康食品）

- ・機能性食品素材の新素材開発

エレクトロニクス分野

機能フィルム

- ・ディスプレイ用ハードコートフィルムの開発
- ・クリーンエネルギー工程フィルムの開発

電子材料

- ・積層半導体周辺材料の開発
- ・プリントドエレクトロニクス周辺材料の開発

光学部材

- ・スマートフォン向けUV硬化型レンズの開発



前提条件

		2018年3月期		2019年3月期	
		上期実績	下期実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		111	111	110	110
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	295	380	330	330
	原油 ドバイ (USD/bbl)	50	62	62	62
	国産ナフサ (円/kl)	37,600	46,300	47,000	47,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

化学で
未来を
変えるの

ダ